

心理的アセスメントに関する理論と実践Ⅱ

[講義・演習] 第1学年 後期 必修 2単位

《担当者名》○野田 昌道 今井 常晶 金澤 潤一郎 西郷 達雄 関口 真有 金山 裕望 上河邊 力

【概 要】

公認心理師の実践において必要なアセスメントの理論と方法について学ぶ。公認心理師業務に必要な心理検査の実施からフィードバックまでの一連のアセスメント技術を体験的に学び、習得をめざす。

【学修目標】

- ① 公認心理師の実践における心理的アセスメントの意義を理解する。
- ② 心理的アセスメントに関する理論と方法を理解する。
- ③ 心理に関する相談、助言、指導等へアセスメントを活用できるようにするために、心理状態の観察および結果の分析方法を習得する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	投映法を用いたアセスメント①	教材事例を用い、ロールシャッハ・テストの解釈の基礎を習得する（クラスター・アプローチ）。	野田 昌道
2	投映法を用いたアセスメント②	教材事例を用い、ロールシャッハ・テストの解釈の基礎を習得する（統制力・ストレス耐性について）。	野田 昌道
3	投映法を用いたアセスメント③	教材事例を用い、ロールシャッハ・テストの解釈の基礎を習得する（感情について）。	野田 昌道
4	投映法を用いたアセスメント④	教材事例を用い、ロールシャッハ・テストの解釈の基礎を習得する（認知について）。	野田 昌道
5	投映法を用いたアセスメント⑤	教材事例を用い、ロールシャッハ・テストの解釈の基礎を習得する（対人知覚・自己知覚について）。	野田 昌道
6	投映法を用いたアセスメント⑥	教材事例を用い、ロールシャッハ・テストの解釈の基礎を習得する（所見の作成）。	野田 昌道
7	パーソナリティ検査①	代表的なパーソナリティ検査について学び、結果および解釈の仕方について習得する。	西郷 達雄
8	パーソナリティ検査②	代表的なパーソナリティ検査について学び、結果および解釈の仕方について習得する。	西郷 達雄
9	行動観察	各種観察法とその技法について学ぶ。映像資料に基づいた観察実習を行ない、実践的に行動観察を行なう。	西郷 達雄
10	神経心理学的アセスメント①	ADASの実施方法、結果の解釈、報告書の作成方法について学ぶ。ロールプレイを通し体験的に学ぶことで、実施方法を習得する。	関口 真有
11	神経心理学的アセスメント②	リバーミード行動記憶検査の実施方法、結果の解釈、報告書の作成方法について学ぶ。ロールプレイを通し体験的に学ぶことで、実施方法を習得する。	関口 真有
12	神経心理学的アセスメント③	BADSの実施方法、結果の解釈、報告書の作成方法について学ぶ。ロールプレイを通し体験的に学ぶことで、実施方法を習得する。	関口 真有
13	発達障害のアセスメント	M-CHATやPARS、ADOSといった検査の概要を説明し、発達障害のアセスメントの流れと実施方法について理解を深める。	上河邊 力
14	教育領域におけるアセスメント	教育領域で用いられる心理的アセスメントの概要、実施方法および意義について学ぶ。	金山 裕望
15	協働的/治療的アセスメント	治療的アセスメント（Therapeutic Assessment）の中核概念を学び、初回面接やフィードバックのあり方について検討する。	野田 昌道

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

※授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

単元ごとのレポート課題、演習の実施状況（70%）、一部の検査の実技試験（30%）によって評価する。

【教科書】

適宜各講義で指示する。

【参考書】

適宜各講義で指示する。

【学修の準備】

- ①毎回講義で扱う心理検査に関しては、事前に概要について予習しておく。
- ②講義で扱う心理検査に関しては、臨床現場で実施できるように、実技練習をしておく。
- ③各単元で提示した課題についてレポートを作成すること。
- ④ウェクスラー式知能検査、投影法に関しては実技試験を実施するため、実技練習をしておく。
- ⑤行動観察ではデータ分析を行うためSPSS、R、エクセル統計ソフトなど各自が慣れている統計ソフトを準備しておくこと。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、臨床現場において人の尊厳を重んじた科学者・実践家として社会に貢献することが期待できる能力を修得するという臨床心理学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。